



お吟さま

今 東 光

Roman Books

昭和33年10月10日 第1刷発行
昭和43年10月30日 第6刷発行

お 吟 さ ま	著 者	今 東 光
	発行者	野 間 省 一
	発行所	株式会社 講 談 社 東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号 112 振 替 東 京 3 9 3 0 電 話 東 京 (942) 1111 (大代表)
	印刷所	豊 国 印 刷 株 式 会 社
	製本所	有 限 会 社 中 沢 製 本

210円

© 今 東 光 一 九 五 八

(落丁本・乱丁本はお取り替えいたします) Printed in Japan

お 吟 さ ま

今 東 光



Roman Books

装
幀

川

田

幹

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

お吟さま

その一

お三人目だから、お三^{さん}さまとお呼び申しておりますが、お小さいときにはお亀さまと申上げましたそうで。

お吟さまと申上げますが、女は氏あって名が無いのでござりますから、家方^{うゑかた}ではお三さまで通つて居りました。

御主人のお吟さまとは御同年でござりましたので、河内^{かわちの}国若江^{わかえ}郡の沼^{ぬみ}べりの村から、はるばると御奉公にありましたときは、誰しものように泣き明した夜もござりましたが、お吟さまづきとなつて朝夕かしずき、お給仕やら、御召換えやら、御入浴と御介添え致しますうちに、御むつび合う御間柄となつて、お次の間に休ませて頂くほど御不憫を御かけ

下され、いつとなく御心のたけなど御打ち明け遊ばされるほどになりました。まことに不思議な仕合せでござりまして、平戸渡りの瑠璃の櫛やら簪やら、見たこともない御頭の御飾り物から、美しい御小袖、金糸銀糸で縫取りした御帯など鷹揚にたまわり、泣き明した夜のことも遠い夢のように忘れて仕舞ったこととでござります。

秋の夜更けなど間の御襖を閉めさせたまわず、夜のふけるおもしろさに何時までも御寝遊ばされず、生国の御物語を御せがみなされ、間近に聳える生駒山の山裾にひろがる河内野を、うねうねと蛇のようにうねり曲って流れる大和川という大河と、それに添うて数えきれぬほどの沼やら池やら、その間に点綴する村々の、とりわけて古の歌垣にもくらべられる夏の夜の踊りのおもしろさ。

「その唄を聞かせてたもれ」

と御せめ遊ばし、枕にうつぶせになって低い声して

人と契らば

浅くちぎりて

末とげよ

もみじ葉を見よ

濃きがまず散る

ものに候

と歌ってお聞かせ申しますと、ほとほと御感心遊ばされ

「河内者は情知りよの」

と仰せられたのであります。その御言葉がいかにも感に堪えて聞えましたので、はっとしてお吟さまのお顔を御見あげ申しますと、短檠たんけいの灯影に背そむらを御むけなされましたが、ありありとお顔をお染め遊ばしたかにうかがえたのでござります。それからは一入お情を蒙りましてござります。

朋輩の大方は泉州生れが多うござりましたが、河内者も少くはござりませんで、いちばん年若なところから御不憫がかかりましたものでござりましょうか。

屹としたことは存じませぬが、大宗匠様の御母堂とやは、遣明船の末吉丸とか申す大きな御舟を御所持なされた河内国平野郷の末吉様から御輿入れ遊ばされた由に承ってござります。平野郷では末吉家やら御一族の成安家やら大分限者だいぶんげんじやでござりまして大宗匠様の御

舎弟にあたらせられる宗巴様の御娘も成安家の道慶（桂）様の、いずれは嫁御寮との御約束とか洩れ承ってござります。御当家と河内との御因縁の深いのは、あらましこのような次第でござります。それゆえ奉公人も殊のほか河内者を召し寄せられる趣きに承ってござります。隣国との深い御誼みは、ただ格式とか、氏素姓とか、財宝の多寡ばかりでござりませぬような。永祿の頃とか承りましたが、御上洛遊ばした織田様から堺津へ対して、何でも難しい儀を御持ちかけ遊ばされ、御会合三十六人衆や、納屋十人衆など頭立たせられた御方々も、二万貫文の矢銭とやらに御運も尽き果てたと思召され、櫓を築き、堀を深うし、菱の実をまいて御合戦の御用意のとき、女子供の足弱はともかくも河内国に落し参らせたとぞござります。その代り生駒山の峯つづき、信貴の御城にこもられた松永彈正様の御合戦の砌りには、さしずめ河内野が御合戦場と相成りましたので、河内の御親戚が和泉へ立ち越えて、御当家へも御避難あそばされたかに承ってござります。これも戦国のならいでござりましょうか。

河内国は御存じのごとくに海と申すものがござりませぬ。わたくしなども沼よりほかには見も知らぬ村落に生い立ちましてござりまするので、深野ノ池など世の中にこれほど大

きな池は他にあるまいものと存じてござりました。それが御当家に召し使われましてからは、潮干狩やら住吉詣やらと、果てしも知らぬ海原うなばらというものを見せて頂きましたこととござりまする。井戸の中の蛙という譬えがござりまするが、まこと河内野の青蛙が海を見たのでござりまするので、ただ驚きあきれるばかりでござりました。とりわけ御親族の納屋衆の御一方と承りましたルソン助左衛門様と仰せられる御方様が、遠い南の海を越えてルソン島（フィリッピン群島）から堺津へお帰り遊ばしました時と、エスパニヤの南蛮船なんばんぶねがこの港へ入った折のことは忘れることが出来ませぬ。ともに大砲を打ち鳴らし、華やかな御上陸なされるのを、大勢の人々と共に櫓子窓れんじまどから垣間見たこととござりました。

南蛮船のカピタン様と仰せられる船長ふなおきは、御会所の御招きの後、御当家の茶湯に招じられて御越しなされました。背の高さは六尺有余もござりましょうか。白磁はくじのような白い肌をされ、お頭の赤毛つむりは御仏のように縮れて、御鼻は曲った鉤鼻で、御眼の玉はビードロのように青く澄んで凝つと見つめられると身がすくむように存ぜられました。それが黒羅紗の異様な御服装にモールが燦然と輝き、シャポーという冠り物を召されました。御書院に御通りなされ、御長持に緋毛氈をかけたのへ御腰をかけられ、人の生血いきちのような赤い御酒

を下されましたが、お吟さまは大層御意に召した御様子でギヤマンの高坏でなみなみ一杯召しあがられました。ござります。わたくしにもと一杯、頂戴いたしました。河内では孕み女に鯉の生血を吞ませますが、その生臭い匂いを思い出しますと、何やら胸がつかえて御遠慮つかまつりましてござります。

これは後のお話でござりますが右大臣信長様は、この鳥毛のついた冠り物を召されて、御馬揃いに綺羅を飾られました。それで、太閤様もこの生血のような御酒をいたく御たしまれ、御珍重遊ばされた由に承ってござりまする。

総別、南蛮の御方はお女中を御大切にもてなされ、沓脱石から御縁側にお運びのときなど、わざわざ御手をかけられて御介添えなされます。わたくしごとき召使の者さえ、御腕をお貸し下され、耳の付け根まで赤うなりましたこと。河内の親など南蛮人と腕を組んでいる姿など見ましたなら、さだめし氣を失うこと。ござりましょう。堺津ならでは見られぬ風情と思召し下されませ。

お吟さまも御家柄、御数寄の道にかしこく、こういう時などカピタン様の御所望もだしがたく御点前を遊ばされました。お女中の御点前など茶湯では見聞きも致しませぬことな

がら、お女中を上座に据えられる御国振りの御風俗とて、この時に限って、御母君の宗恩様御介添え、御父君の大宗匠様の御差図によりまして、見事な御点前でござりました。カピタン様御帰館の後、大宗匠様の御言葉として

「数寄と風流の道には老若男女の別あつてはならぬもの。吾より後の人は、女点前おんなでまえを考えたうてはならぬ喃」

と仰せがござりました。わたくしなど数寄の道は合点が参りませぬが、お吟さまの御優美な御点前を拝見いたしましたして、女ほど御点前はしおらしく、柔やましく、美しく存ぜられましたこととござります。

もとよりカピタン様には御茶席の書軸や香炉や釜など、いかほど天下の名器をととのえばとて存じ寄りもござりませぬ。御当家御秘蔵の珠光青磁の御茶碗でと存じて居りましたところ、大宗匠様の御肝入りで、今焼の織部様御手造りの御茶碗を御用意遊ばされたのが、いたくカピタン様の御意にかない、そのまま御土産としておもたせなされました。これは黒織部の大振りの御茶碗にクルス（十字架）が白抜きに現われて居るものでござりました。いかさまきびきびとした御あしらいと存じ、流石に三千石の天下の御茶道と感じ

入ったこととござります。

御承知のごとく大宗匠様には御先妻様がおありでござりました。公方様の御相伴衆で、五畿内を御独りで御治めになられた三好修理大夫長慶様の御息女で、度々の御合戦に堺津へ御成り遊ばすうち、大宗匠様を御見込みで御息女を御内儀となされたとの御噂でござります。この御腹に紹安さま即ち道安さまが御生れになったことは御案内の通りでござります。斯様なことも、もとはと申さば大宗匠様と実休様とが紹鷗宗匠と御同門の因縁でござりましょうか。筑前守様（長基）の御次男の実休様は、御兄君の長慶様の御命にて泉州の岸和田城におわしましたが、堺津の南荘にも御別邸がありまして、大宗匠様とは格別の御昵懇の御間柄であられ、されば御兄君の長慶様御息女を御とりもち遊ばされたやに承って居ります。はからずも実休様は畠山様との御合戦に、久米田に御陣取りの折柄、流れ矢に傷付いて御かくれになりました。まだ御壮年の砌りで。

御舎弟を御失い遊ばされ、憑みに思召す御一子の義興様が暴かに御他界遊ばされ、人の御噂には流石に剛氣の長慶様も茫然となられ、終日、御もの言いも少く御なり遊ばされて、これまた殿方の御厄年に御他界遊ばされたこととござります。よしなき人の口の端